

芭蕉翁  
百選

漢書風月集

5  
1145





門  
1145  
卷



古よりいふを知らず  
あまのよき信するは難きこと  
先を知るを信するは亦  
ふれは信するは詩歌連作の  
語をいふことむ 吾祖の信  
り古人の信と正眼をいふ  
よく向上の一路を踏え  
るは眼の誠のまよや







一句一事を請求する冊子としたはし  
華なる風月集と題し撰者  
上巻の福の御百の巻を忌避慕  
の二句向うといふは其のよし  
よく伝ふるの志よく勤しめ  
柳路の五の先人の巻をたゞ  
その交々くとりてまある  
存してまある一信ありたの

ゆかひの巻をいふはなほ  
しはつとていふ巻の子の  
とやの巻をいふは集の序  
乞ひの巻の母の巻をいふ  
燕の巻をいふは福を幸ひ  
係の巻をいふは易の巻を  
録の巻をいふは其の巻を  
先人の巻をいふは其の巻



その一紙を重なるの信あまは  
なほくし固く辭あるもいふ  
は信を破らんしを破れいふ  
紙まらなまあおし紙らくし  
此意のふはふ朽白くの不易  
流りいふのよく知るるを  
志らふあり  
寛政貳元酉秋世雷申菴元才題

花鳥風月集序

枝の桃路ぬし風雅乃の海く月よ阿そけ  
里風ふあさむしこをさるるはむささく  
るもさしあむしむれあまもはむささく乃  
はむささくしむささくはむささくはむささく  
らんむささくむささくむささくしむささく  
たのしむささくむささくむささくしむささく









禰津桃路子所輯誹集數卷  
 成矣請弁其首承而披之或  
 沈思湖月或寫憂江風或濺  
 淚花溪或驚魂蜀魄者茫々  
 扶桑六十六州之同臭味同  
 好相投同氣相集同一眼見  
 焉因名曰花鳥風月集

人々の心は花鳥の心と通じあはれあはれ  
 花鳥の心は人の心と通じあはれあはれ  
 花鳥の心は人の心と通じあはれあはれ  
 花鳥の心は人の心と通じあはれあはれ  
 花鳥の心は人の心と通じあはれあはれ

花鳥の心は人の心と通じあはれあはれ  
 一に述

東江書  
  




戊申秋七月

太室山人序百回







越後縮

晒川

引接山  
聖衆院



歌仙

翁

春もや〜雪も〜調ふ月〜梅  
 巢作〜も〜枝〜の〜春〜し〜  
 別〜色〜を〜お〜麻〜の〜御〜侍〜の〜履〜整〜  
 舟〜の〜二〜魚〜如〜被〜  
 中〜の〜小〜風〜名〜を〜の〜二〜踏〜風〜の〜吹〜  
 嵐〜の〜巻〜ふ〜小〜舟〜  
 百〜り〜如〜  
 山〜伏〜  
 の〜小〜舟〜乃〜や〜く〜

桃路  
 山之  
 枝白  
 松雨  
 延年  
 宋魚  
 霞雪



尾川の剣を丈夫にかけたりて  
下くぐりけりまゝのまゝ信  
麻うへえほしくおく門の口  
女月おの作りとまゝ返りし  
菰色も新しきを隠れまゝお  
村のむね雲のりまゝ新し  
一つ二つ鳥もあつる夕ぐれ平  
孝白も成る屋る番振  
桶のせし袖さつさきおをぬし

山尾  
麻栖  
大儿  
六明  
路  
之  
白  
雨  
年

階子の土を越る蝶  
糸もゆき風巾のまを披く  
鞘鳴のまある僕も細る  
魚を町の倉も淋し店鼻  
時もく牛もあつるまゝ  
二つ三つ大根引く火もあつる  
さくさくありくも貸りて  
言もあつるいそぎのま  
人魂もくく流る涼風

魚  
雪  
儿  
明  
尾  
栖  
路  
魚  
白



川形りよまをを曲る角を補  
やうく動くは冬をさう溜  
まらぬる水は流の都は月さ  
あふよあふる 燒きよの音ガ  
柳枝く佛を夢はさその内  
都のふらりぞれもさうん  
ゆははさふばさ屏風を川に  
砂土さめあかそえさふ  
甲道の花慕さう 旅衣

路明雨雪尾栖几年之

波まのまを越の河く磯

春筆

碑をまきくまらさのまをり  
おとさふまきまらさ  
ゆはさ君さめ序路  
のくはさうりくはさ

まはさ 傳はま 世くはさ  
まはさ 百の媚

可樂庵 桃路



散れ日かきこゆるぬ梅の白ひか  
 いつらくちさうそめもいさか  
 りつりの月を結めて志つちかきり  
 風のぞんじつ吹かす町の中  
 後より見ゆるふのれかゝるぬのき  
 梅の白ひかきこゆるぬ梅の白ひか  
 志を雪かきこゆるぬ梅の白ひか  
 我々のふゆをさかす秋のこゝろか  
 風を色かきこゆるぬ梅の白ひか  
 枝白 山尾 素睦 山之 維石 桃路

こゝろかきこゆるぬ梅の白ひか  
 谷のむをさかす秋のこゝろか  
 風を色かきこゆるぬ梅の白ひか  
 冬乃月かきこゆるぬ梅の白ひか  
 辻店や竹の佛のまきの月  
 塙魚の口のとかりや秋の風  
 君う代や古塔のふよ日のまきの  
 痛人の志つちかきこゆるぬ梅の白ひか  
 初月や相こゆるぬ梅の白ひか  
 沾風 山皓 <sup>少年</sup> 山南 霞雪 大儿 延年 居樂 仙魯 綠枝



美たも外を流るる水の山  
るる肉や息を吹く風の  
春の風を吹くま都うれ  
草のつらつら移るるを故へ  
水の月をばくくさるる  
舟のつらつら移るるを故へ  
舟のつらつら移るるを故へ  
舟のつらつら移るるを故へ  
舟のつらつら移るるを故へ

竹師  
六明  
宋魚  
斗文  
三嘗  
木鶏  
松雨  
麻栖  
榴石

梅の香を地をばくくさるる  
口やわらわらわらわらわら  
水鶏啼やるるのやまをばくく  
さるるのやまをばくくさるる  
さるるのやまをばくくさるる  
さるるのやまをばくくさるる  
さるるのやまをばくくさるる  
さるるのやまをばくくさるる  
さるるのやまをばくくさるる  
さるるのやまをばくくさるる

竹茂  
野紅  
桺賦  
魚淵  
蘭入  
李山  
燕石  
兔園  
山缸



門志かみくも遠入くおく水鏡分  
 梅う香や通くこれよりお音  
 渾一から空の中かちわめれふ  
 山りやふくくくくくくくく  
 乳母く世帯一見よあくるのあけ  
 禁さきくく情くくくくくく山梅  
 是らあきくくくくくくくくく  
 けりくくくくくくくくくくく  
 枝傳めきくくくくく梅の花  
 二扇  
 北里  
 臥虹  
 其葉  
 徐翠  
 荷風  
 志選  
 奚志  
 芦鶴

むい仙やもくくくくくくく二之日  
 入海の月や中條一海く  
 水もく浅瀬をりる月あか  
 相夕のきくくくくくくくく  
 渾くおきめれきくく波の月  
 月の月ちくくくくくくく  
 破くくく友もあきくくく  
 見えくくくは村く花のさくく  
 秋もくくくくくくくくく  
 雨好  
 北舟  
 柳之  
 露白  
 子方  
 二囀  
 丁之  
 市山  
 中條  
 溜北



山名錦やききまらりり秋の風

柳波

夕暮の折戸の風は秋の風

柳宇

ふりくくおりのき梅の徳ひか

下條 柳打閑

踏ひくもふまもつる信よ叶のむ

亀遊

書院定規の海や一葉の秋

三井

つらつらあきよあきよあきよ時よ

文石

ふらふらのまらりり秋の風

里見

東の山麻一葉の秋の風

里藤

あつらひの秋の風

亀文

月山みぢくふの秋日向の風

上野 白童

風や一葉の秋の風

怡明

梅の秋の風

乙龍

月ありくく秋の風

葩夕

秋の風

仙田 二川

風よ牛の脊を砥く秋の風

山川

あつらひの秋の風

友重 嗽石

木柵の秋の風

千手 吟負

あつらひの秋の風

系甘



秀里 花の露や 白くみ  
 二蝶 花の露や 白くみ  
 斗水 花の露や 白くみ  
 右岡 花の露や 白くみ  
 文喬 花の露や 白くみ  
 五嶺 花の露や 白くみ  
 可深 花の露や 白くみ  
 五桃 花の露や 白くみ  
 松里 花の露や 白くみ

里竹 花の露や 白くみ  
 花子 花の露や 白くみ  
 波玉 花の露や 白くみ  
 帰童 花の露や 白くみ  
 松茂 花の露や 白くみ  
 朝雨 花の露や 白くみ  
 露曉 花の露や 白くみ  
 露玉 花の露や 白くみ  
 柳只 花の露や 白くみ



晴の鶴月よみ遊りて芦川にのりて  
安系

月のお乃新しき髪さく女より乳  
芦川

この月やうらみさの片しゆり  
寺石 左来

たのしむ朝疾梅の香りの起る  
宮原 湖海

舞やあのかげのしづは  
大井平 起北

雲のたへし同心町や冬よの月  
芦秀

事こそよも葉吹く園の焚く一燈  
芦笛

是成りし悪よみも。新らさく  
水沢 唸志

山もはやくさくしゆくり好めぬ  
可有

五月もやまゆへんゆらけし  
因風

ふ梅やうまの朝かきのみ  
歌陵

藤のうらみもいづれは牡丹  
湖北

中しよもさく梅のきりしゆり  
五岳

まぬや田のりし伊勢のまり  
馬場 車因

野鳥のしづみの中しよもさく  
芦角

あまのさく柳も白くあさく  
芦航

そらりし卯のむねしづみの月  
伊達 蓬雨

さくさくのしづみもあさく  
百舟



まのりきふ遊ゆらんものまをまらう車

文江

あまのりきふ遊ゆらんものまをまらう車

山旭

海の梅津のすすきまの梢の那

梢嵐

らぬおたりしきまこくち務り外

玉操

甲のものりよまをまらう車

秀鏡

あまのりきふ遊ゆらんものまをまらう車

魯石

まのりきふ遊ゆらんものまをまらう車

完尔

うきよまをまらう車

芳曉

あまのりきふ遊ゆらんものまをまらう車

祖の御心よのまをまらう車

まのりきふ遊ゆらんものまをまらう車

らぬおたりしきまこくち務り外

句をまらう車

むすぶ梅津のすすきまの梢の那

あまのりきふ遊ゆらんものまをまらう車

あまのりきふ遊ゆらんものまをまらう車

風

洛行脚

南尺



短衣のきふもや月夜

關山

周和

えり人きちる余るほらんか

牡園

山をわく里よちるちりか

如松

波せつ風韻りくぬもくを

波暁

ふきやほむ波のり月舟

山笑

卯の毛ふもも月夜

一英

若井よちりく月涼

宇翠

石をくくく白くくくく

溪雪

多峰やふのまのるくく

竹扇

ふきくくく月夜

湯沢

遊仙

くくく朝起のちりくく

野刈

結うきくく垣よみまや梅の花

冬扇

くく月夜

臨澤

芳雨

風やきくくおたの音

鼠角

夕白おきく月夜

牧水

地ふきくくくく

舎真

名月やきくくく

扇車

月ハ何れもきくく

扇翅











朝の半やまの世の目かまぬ月  
 戸建のちと楊のちんや、むれ月  
 梅のちや火のちをさるゝあゝ丁の金  
 夕白や湯れれさまの泊りあ  
 あり人言の細きく流のちおが  
 らいよれ「さく」まの山「さく」  
 ちのちのちのちのちのちのちのち  
 舞よまぬさまのちのちのちのち  
 年一何のちのちのちのちのち

巨流 仙李 慮鷄 龜遊 夜江 莊阜 柯風 夢曉 尺 小國 慶四

月涼のちのちのちのちのちのち  
 月涼のちのちのちのちのちのち  
 月涼のちのちのちのちのちのち  
 月涼のちのちのちのちのちのち  
 月涼のちのちのちのちのちのち  
 月涼のちのちのちのちのちのち  
 月涼のちのちのちのちのちのち  
 月涼のちのちのちのちのちのち

東專 指峯 知洪 蘭有 女 龜養 芦夕 春枝 里文 菊之



独居や浪む月の夜月を友

村松

夢仙

何きくもお給入とて後乃月

有芳

有芳

素のむやあはくこ後の一こせ

栢尾

左菊

ちくく竹風もえくくうの月

見附

一帆

一日蟬よあはれのみよれさくくお

長岡

北洗

月らくくくくくくくくくくくく

宇仙

含凍

嚏よんあはくくくくくくく

斯文

宇仙

ふさくくくくくくくくくくく

瑳瑤

斯文

茶のむやあはくくくくくく

一瓢

瑳瑤

揚くくくくくくくくくくくく

一瓢

さくくくくくくくくくくく

梅左

名月や登る色はぬ入よの

紫虹

一のくくくくくくくくくく

里秋

名くくくくくくくくくく

虎涼

検授もくくくくくくくく

北語

くくくくくくくくくくく

鳥路

好くくくくくくくくくく

吳雪

くくくくくくくくくくく

六蛙



絳衣やの月と脊言はれ  
梅の小辭も心や  
ささけの男丁れ  
都良の早ぬまをうり  
風やささけうり  
閑ささけのさけ  
らんまゝこゝ牡丹  
酸白の咲きこゝ  
絳衣やとれ

與板 洞里

子俊

南嶺

都良

打羊

地藏堂 以水

中嶋 其律

守梅

麥雨

下言の垣の月おやふ  
登人れ  
針のある科  
とれ  
名月や  
ゆきや  
開け乃  
ほろ  
あし女の

坂井

哥柳

干川

初好

止芳

可雲

丁固

里昌

惟中

計山







川音ふ流ふやふもれあふ  
道上 使由

石の中へさかきさかひく  
白根 遠釣

一掃くくさくさく  
峻湖

船や月をむくく  
文和

ひさるる月柳をさ  
新発田 豊井

赤風吹おくふ梅く香のまげめ  
松聲

窓に鏡れ鏡あり月よ鳥爪  
五泉 朔後

まゝもの名もさうりて  
新渾 司邑

我信ふ海を舟りや  
文花

ふさあふ水とささく秋の時  
指雪

誰子あやふさく静  
梅曉

くさくさも井のたさか桐の毛  
梅規

名目やきつるる秋の毛  
坡牛

あつたつたや河ある早の  
寺泊 文虹

あつたつたの中を  
文鳥

あつたつたや  
まの女

あつたつたの  
出雲崎 古佛

あつたつたの  
斗周



くさくさなれはさづきしづの海うら  
犬雲

月影を体たえ兼くり楳津川  
文思

空影のとりふさく志くみぬ  
以南

栲らるる暮昏人の日本如月の那  
春日  
如英

さきとちかしの花れ胡起平  
相崎  
里桐

きり際一の形崩さく秋の風  
二英

たぐ繩と壊くく水や啼かき  
松童

花よおくれみくし奥太郎  
以外

あがり輪の尻繩と背をあらすか  
梅雅

海鶴や横ふ月の海うら  
思三

くさくさなれはさづきしづの海うら  
種兔

横らるる暮昏人の日本如月の那  
松山  
鶴歩

栲らるる暮昏人の日本如月の那  
五能人

さきとちかしの花れ胡起平  
鳳雨

くさくさなれはさづきしづの海うら  
一鳳

あがり輪の尻繩と背をあらすか  
直江津  
残鶯

月影を体たえ兼くり楳津川  
里方

空影のとりふさく志くみぬ  
胡菱



又定か〜後多帰かりそそきさぬ

五智

扶搖

春の月 清く川を流るるや〜りりり

高田

茸井

春の風 吹き渡るのそよ〜りり

野霍

春の月 少ねくあるそよ〜りり

指方

秋の月 明く輝く空のそよ〜りり

風五

梅の花 白くも道ゆくそよ〜りり

紫石

草花 咲く後 花散る〜りりり

無曆

山崎 や 朝のそよ〜りりりり

和水

終る時 夕のそよ〜りりりり

一芳

西の風 吹くそよ〜りりりり

竹茂

思ふ 心 思ふ人 思ふ〜りりり

其友

心 梅 千 枝 花 散る 秋 明 け

閑水

梅 花 香る 風 吹く 梅 花 散る

素竹

終る 時 夕 空 明 け 思 ふ 心

可友

〜りりりりりりりりりりりり

曾龍

〜りりりりりりりりりりりり

其桃

〜りりりりりりりりりりりり

沙明

〜りりりりりりりりりりりり

祖明



あつんとまれば白くや梅のよ  
梅のよふまゝとあれたるいそよ  
毒さくやと今あめくぬかめ  
一かめのらとてしる井か丁  
あひれとて笑つて月のま  
あつと梅の白くふ味さく  
山里やあゆまきつ湯よ秋の  
と白くや逢つた様人さうり  
くいとふとてしる井か丁

恭亀  
風狂  
野風  
野童  
玉珧  
素菊  
冥池  
鬼工  
右桂

あつと梅のよとてしる井か丁  
水の月揺りて後と知れ  
あつと梅のよとてしる井か丁  
あつと梅のよとてしる井か丁  
あつと梅のよとてしる井か丁  
あつと梅のよとてしる井か丁  
あつと梅のよとてしる井か丁  
あつと梅のよとてしる井か丁  
あつと梅のよとてしる井か丁  
あつと梅のよとてしる井か丁

雨夕  
化柳  
梅至  
苔山  
紫網女  
蘭臺  
鶯大  
李紅  
芦洲

荒井



梅子や佛を彫む石の如し  
夏や冷むるは海の日よき

浦元

如蘭  
漁日

若狭

青のるやも世の目も

小濱

北雅

日あかりと梅のかさ

巨川

大なる水は好むや

沂山

月の名も子園子

貫巖

曙や

東鳥

ふの

希田

其堂

其堂

雪の

吞空

降

吐雲

流

桐戸

鬼雀

世の

梅五

舟

朴人

川

川

陶阿

越前

東先

三國

東先







時鳥の~~~~~  
 一すふ斤神定~~~~~  
 船の~~~~~  
 仕合や門~~~~~  
 多々  
 川~~~~~  
 船の~~~~~  
 此中~~~~~  
 青錢

斗入  
 破泉  
 歎而  
 一怪  
 鹿古  
 風逸  
 龜選  
 能登  
 鳴  
 一冠



花ささる雪梅——ふ乃斬

珠卜

ふらふらやきりあもふとまよふ

都山

まよふのまけ——たゆまぬ人かふ

文珍

一口ちまふもふふふふふふ

玻井

雨の日は秋まふふのおかこま

麥秀

あ——けけけけけけけけけけ

夕遊

梅のあまふふふふふふふふ

百尔

相白のやあふふふふふふふ

萬井

ふの影おふふふふふふふふ

岸芷

あふふふふふふふふふふ

都邑

ふ連ふふふふふふふふふ

素玉

魂棚やまふふふふふふふ

李溪

ふふふふふふふふふふ

朝々

深ゆや傾城まふふふふ

六窓

夜起ふ背戸まふふふふふ

見魯

ふふふふふふふふふふ

蚊几

萍ふふふふふふふふふ

ぬゆふ

あふふふふふふふふふ

加田

甲

黒嶋

田鶴濱

能登邊

正院

トギ

女

黒崎

七尾

女

魯良



風あそび秋の戸たたく人様

甲濱

とと

越中

り丁や庭まきの極首たち

高岡

鈍勺

紙あきの月よるる大あや那

敬市

湖の紙とらふ心と丁ねみ

斗醉

ちけあそびあそび人のあひくぬ

杜市

ちかきもも泥のたたり初さくら

緑水

ねまきおらうらうらうんこも

雄上

まねや日ひさるるも川原

琢良

くのさあや影よ思ふふあはくも

青河

まわけて痛きお娘のあそび

牛窓

浦ふきの火と草海士の地まき

井十三

丹房

おまのいおまのいほらまき

才雅

とけ満ちるるを雨の降る白うさ

汶弄

風や星のりりあるよあそび

戸出

蟹臥

麻の節をまきや流るるこも

牛石

ちかきあそび場の紙の紙摺

富山

朶枝

破碓のほのりりまき

鳥交



直生  
壺中  
古童  
みる女

佐渡

陸子  
二江  
鷺夕  
丈山

小木

川原田

流平  
尤溪  
都梁  
烏啼  
君山  
天珠  
巨海  
林卧  
吐雲







日と松の中と明のつとら〜  
きりや〜川〜と〜の先  
鶴の鳴るはの〜鴨のうゑ  
お撲れぬおと〜橋〜  
ゆりのおの結末も〜の月  
山〜と〜の道〜  
世ら〜と〜の月〜  
日れ〜と〜の湖〜

陸奥

鳥橋  
鸞窓  
杜武  
李中  
有兔  
萬立坊  
五明  
湖柳

誰〜と〜の〜  
何〜と〜の〜  
南〜と〜の〜  
水〜と〜の〜  
何〜と〜の〜  
ま〜と〜の〜  
ま〜と〜の〜  
ま〜と〜の〜  
ま〜と〜の〜  
ま〜と〜の〜

南部  
素卿  
語連  
谷水  
巨石  
可直  
池鴉  
艸羅  
吏仙  
吳舟



暮のつとほりたり 綴る月 棚倉 一鳳

まのめゆりしきり 燗うらふ 梅谷

岸の深きくさくさ 美人あま 梅溪

うたまの こそよもえの氷 青田

岸よ 燕の屋のまじり 帯を 蟻登

名りおはしれは 燕の子を 燕梁

くさの月 燕のねまじり 其風

空鳥のまじり 深渚 泉川

岸よ 文字かき 里の山あふ 白川 普等

うたまのやい月 執事の控 得魚

明の月 双鳥の波の水も 三浦

空の鳥の 古松垣 深畊

うたまの 杖のしり 楚江

空の鳥の 杖のしり 楚江

空の鳥の 杖のしり 楚江

空の鳥の 杖のしり 楚江

空の鳥の 杖のしり 楚江

空の鳥の 杖のしり 楚江

空の鳥の 杖のしり 楚江

空の鳥の 杖のしり 楚江

空の鳥の 杖のしり 楚江



栞をよみてしるしを真の深きなり

岩城

栞尾

元山やぬえのにおおきく月

馬令

栞をよみてしるしを真の深きなり

蘭之

中におおきくしるしを真の深きなり

仙臺

古道

外におおきくしるしを真の深きなり

夏雲

下におおきくしるしを真の深きなり

雪守

り秋のまふもんきつは屋敷の

兔耳

冠をよみてしるしを真の深きなり

大江

冠をよみてしるしを真の深きなり

白居

いよより月のかさまたち運の那

萬寸

名月やまのりもたつて此岸

奴宮

雲をよみてしるしを真の深きなり

松嶋

朝夜坊

うらやまのしるしを真の深きなり

投雲

娘をよみてしるしを真の深きなり

葛父

揚をよみてしるしを真の深きなり

石巻

雪鼠

下野

吹をよみてしるしを真の深きなり

日光

雲蘿

人よよむを真の深きなり

素明



一木の扇かきあふ梅えんうれ 蜀来

ふむよ月もあてほむ蓮うか 宇都宮 甫明

岩松やかげも果さけねき 女 秋天

舞ううらを舞やほそふ 古河 秋菊

び別くきく 朽木 舞巾

舞や月の烟 赤見 青雨

まほくま 山 山風

岩の電の煙を消 喜斗 文朝

くく 楚 喜斗

女鳥ふ松の 女 素蝶

たつ 小山 秋水

く 楚 楚流

夜梅や 赤 赤卒

上野

雪や小ね 高崎女 一紅

月 藤園 雨什

梨や梅林 迂 迂生

梅 其 其雄







己うきにわきさけし時梅多 松枝 一雨

去る昔や竹より竹より竹より 淡川 青峨

井の早水龍馬の月の鏡小 紫雪

あささうしと女とあはれ燕丁丸 春蒲

切さの衣も僧衣も見えう那 長沼 似鳩

信濃

酒もさふゆる女何にかさうら 善光寺 猿左

空月や竹陸きふあふ 善光寺 柳莊

言はれし水のよれ世か外 路人

あささうらあさうら月さる梅小 文兆

常やあはれさるる相あし 善光寺 洞芝

あわさうしとやうきさう 善光寺 五什

年ひ一人きさる梅乃風 守一

あささうらあさうらあさうら 吉田 雨柳

あささうらあさうらあさうら 飯山 蘭叟

あささうらあさうらあさうら 飯山 白亀

あささうらあさうらあさうら 飯山 桃里

あささうらあさうらあさうら 松代 杉羽



啼 雛子 萩の 莖を ぬき 庭を せん  
麥 語

浮 舟や 水の じやうを ぼく ぼく  
李 井

月 空を 照らす 光を ぼく ぼく  
岩 野  
秋 水

秋 夜や 蛩の 音を ぼく ぼく  
石 友

朝 雨や 香の けを ぼく ぼく  
小 布施  
杜 風

秋 夜や 少の 光を ぼく ぼく  
和 十

秋 夜を ぼく ぼく ぼく ぼく  
多 少

秋 夜を ぼく ぼく ぼく ぼく  
中 野  
蘭 長

秋 夜を ぼく ぼく ぼく ぼく  
大 笹  
有 來

秋 夜を ぼく ぼく ぼく ぼく  
野 尻  
湖 光

秋 夜を ぼく ぼく ぼく ぼく  
夜 光

秋 夜を ぼく ぼく ぼく ぼく  
稻 荷 山  
冬 翠

秋 夜を ぼく ぼく ぼく ぼく  
ト 胤

秋 夜を ぼく ぼく ぼく ぼく  
麻 績  
鳥 譏

秋 夜を ぼく ぼく ぼく ぼく  
明  
可 嗟

秋 夜を ぼく ぼく ぼく ぼく  
玄 丈  
梅 里

秋 夜を ぼく ぼく ぼく ぼく  
戸 倉  
古 懶



雪や朝のふゆ〜雪乃も

佐久 祇因

朝のよ通を〜朝の眠るる

蘆庵

か〜りそよ月〜雪のさぬ人の上

鳥天

青押よ〜りの月のか〜り〜

桂花

あ〜あよ秋の色は〜ふ〜

坂木 鳥藤

藤系や〜ふ〜る〜る〜

上田 如毛

朝〜りの梅〜る〜る〜

雲帯

世に〜る〜る〜る〜

麥二

あ〜り〜林と〜る〜

井一

梅の〜る〜る〜枝の〜る〜る〜

茶園

あ〜る〜る〜梅の〜る〜る〜

文下

あ〜る〜る〜や〜る〜る〜

半古

月よ〜る〜岬と〜る〜る〜

争茂

あ〜る〜る〜あ〜る〜る〜

自徳

あ〜る〜る〜あ〜る〜る〜

文輔

あ〜る〜る〜あ〜る〜る〜

文紹

あ〜る〜る〜あ〜る〜る〜

扇志

あ〜る〜る〜あ〜る〜る〜

杜鳥

諏訪



雛子啼くや梅所の素花おとこ卿原露白

梅の世をぬくおのれ平沢莊里

友のこゝろのむ梅は月おと木曾泰良井去留

山牡丹のよきを推る白糸

春風や小道出て来る古錦

遍思のきか古錦

飛驒

只待こゝの月ていさ高山竹母

も〜〜〜〜〜竹母

夕の月や流る竹明

と月よのきも月亮

常や枯し茨の中滄洲

あはれい白喜

ふ萩のちりや萩原何大

美濃

風さ〜〜北方再和房

む木槿秋桃里

ま〜〜都麥







葉くまのりんあくはるる閑古き 一萍

山風やあゝ吹たささめ梅のほふ 大津 菊二

山もみぢ舞くくさくも世かうか 五来

入月よ枯し流氷のまろりう那 五浮

花年くし流氷ふさゆの鐘の路 巨淵

波くまのりんあゝあゝぬまの月 仮真

舞くまのりんあゝあゝあゝの風 三井 千影

風は果や平舟の捨る几 長濱 桃舎

看經のちとすきやまそささめ 仙路

入月よ秋風くまのりん 甲賀 曾秋

佐土のねくくあゝあゝまの月 多賀 塘里

八幡や月のかげまのりん 淺井 去何

糸のあはくくくくくく 八幡 蘭之

定ぬくくくくくく 彦根 如英

園のふゆくくく 御園池 淇水

傍人の月くくく 愛知川 風扇

命はくくく 愛知川 芦水

初しや 日野 素兄



高嶋 圃丈  
 膳所 蚊山  
 勢田 雨橋  
 仁保 思聲  
 竹村 羊夫  
 石部 ふき  
 横露 扇律  
 平尾 馬瓢  
 常陸

栗崎 市夕  
 買鳥  
 水府 古徑  
 燕子  
 土浦 石牛  
 五出  
 八溝山 露玉  
 筑波町 鴛巢  
 太田 燕之







名月や一ひこ一ひの目あふ  
洗耳

名月如篇やねを侍り  
露澄

大匠の月もほろり  
一燈

雪を離るるあつり  
花柳

旅をうらまひり  
紙鳶

林の昔やゆふ茶と  
吐鳶

萍やはほろり  
潜龍

塵のまやあつる  
飛錢

月も世はさき  
瀬陵

風やふるまひ  
雨亭

安房

紙月ねがひ  
東野

道もまはれ  
水衣

名月一  
明末

懐かしの  
車隣

花月  
梅雪

相好  
花容

名月  
月叟

東金

栗生

下湯江

平入

府中



柔好の灯火 残る月 見ゆ水  
きききき 雨は 舞下 吹く 千々り  
文甫 涼花

武藏

吾眼ハ あり 舞ぬ人 名の花  
江戸 抱山寺  
門 瑟

卯の 名や 海 空の あり 花  
狐 麥

名月や 葡萄 空の あり 花  
野 泉

草の 香ふ 花 あり 花  
卷 阿

入海の 時 あり 花 あり 花  
花 懸

雪の あり 花 あり 花 あり 花  
剪 雪

雪の あり 花 あり 花 あり 花  
素 丸

錦の あり 花 あり 花 あり 花  
子 光

多の あり 花 あり 花 あり 花  
尺 経

うら あり 花 あり 花 あり 花  
茂 楓

里人 あり 花 あり 花 あり 花  
素 雲

ある 芥の あり 花 あり 花 あり 花  
菊 路

山の あり 花 あり 花 あり 花  
馬 水

弱き あり 花 あり 花 あり 花  
蛙 水

弱き あり 花 あり 花 あり 花  
素 峯

葛飾



素曉——と及んぬるはとらふ  
 我泉——梅のむ  
 秋瓜——多女庵  
 餠餅——名月や氷ついでまゝはあとの音  
 琴堂——名月や海も岸も音は波  
 星瓜——名月や海も岸も音は波  
 草光——鏡もも様もも——名月や海も岸も音は波  
 如春

白雄——春秋庵  
 長翠——名月や海も岸も音は波  
 春鴻——人さくら同——梅もあつて今  
 大兆——その地——あまはよ風の音は波  
 帰童——山陰や朝もふらふた片に聲  
 成義——名月や海も岸も音は波  
 恭里——深川  
 古友——尼  
 夢太——雪中庵



つゆくちきり中あしりかきす

完来

まきや物ゆきりるの月

千万女

まのおとあはれはつる梅の月

三駱

らひやる中井梅や所はあ

班象

兼しう梅るるるるるるるる

一兆

朝鳥にぬる梅の月

月守

まの月かゝる鹿鹿のあつり子

嵐亭

あつりやる車もかゝるるるる

秋杵

あつりやる人あつる酒を井下

老鳥

鐵の馬よまきりあつる月

方壺

あつりけいれ雀と梅の白の月

梅流

あつり牡丹遠あつる梅の今月

宜麥

あつりあつる梅のあつるあつる

白麻

夜梅やあつるあつる朝あつる

蓼二

あつりあつる梅のあつるあつる

雨静

あつりあつる梅のあつるあつる

一鷺

あつりあつる梅のあつるあつる

蓼阿

あつりあつる梅のあつるあつる

彭壽



雪のふるまひを今も待つに  
雪のふるまひを今も待つに  
雪のふるまひを今も待つに  
雪のふるまひを今も待つに  
雪のふるまひを今も待つに  
雪のふるまひを今も待つに  
雪のふるまひを今も待つに  
雪のふるまひを今も待つに  
雪のふるまひを今も待つに  
雪のふるまひを今も待つに

雪碓  
普成  
翠兄  
沙羅  
凉考  
蓼山  
千潮  
星衣  
糸丸

あつた月影のほろに  
あつた月影のほろに  
あつた月影のほろに  
あつた月影のほろに  
あつた月影のほろに  
あつた月影のほろに  
あつた月影のほろに  
あつた月影のほろに  
あつた月影のほろに  
あつた月影のほろに

蓼化  
歡夫  
玉圃  
玉卮  
牡丹  
竹城  
雨吟  
亀二  
午心



後くの優なりたり夕さくら

歌白

一のちうつれくさやあひる

石町

魯山

春の月ふゆり思ふくつ移りか

菊史

枯草を十層も登る者の念かれ

市交

霞の本を揺るやちうされ

鴻巣

柳几

空の雲の月を二心のちうさる

柳也

くさやちうさるやちうさる

くさ女

雪のちうさるやちうさる

雪西女

雪のちうさるやちうさる

雪西女

雪のちうさるやちうさる

篁雨

お新よ思ふやちうさる

嵐二

葉やほろぬくちうさる

惟山

紙の片付方や朝かき

上尾

湘君

ちを待たぬやちうさる

八王寺

十起

ふゆのちうさるやちうさる

一草

ゆきのちうさるやちうさる

青梅

雪飛

ふゆのちうさるやちうさる

文元

ゆきのちうさるやちうさる

大師川原

暮來



物あはぬ里の秋風さむざし  
可奈川 雪のけ  
戸の底よ水田の移りし鶴  
雪つ

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 雪、水、田、鶴.*

歌仙

翁

雪の雪の積り上野の浅草  
完来  
雪の雪の積り上野の浅草  
桃路  
雪の雪の積り上野の浅草  
荏丹  
雪の雪の積り上野の浅草  
白麻  
雪の雪の積り上野の浅草  
星衣  
雪の雪の積り上野の浅草  
雨静  
雪の雪の積り上野の浅草  
歡夫



路少於多たうぬはくく入  
汗一の化粧ふぬくく着衣  
夕日波る葵の影も葉あひ  
陀羅尼経くくちんちんの配膳  
我なうく嚏く後あうくう色  
灸くお着くお不くくおるく  
く仙子少きくの蟬のえくく  
又彫くくくく満くくく  
くくくくくくくくくくく

彭壽

路 来 麻 丹 壽 衣 静 夫

少小もくくくくの様くくく  
糸端の縁掃くくくくく  
くくくの沙地くくくくく  
鏡を鏡くくくくくくく  
路子みくくくくくくく  
平なまくくくくくくく  
野一海の根くくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく

夫 麻 来 衣 壽 静 麻 路 来







山城

歌仙

時鳥大牛系をよは月夜

を〜四方より来る風を吹

嗽るよははる新ふ標の〜を

首は弱き夢も吹りりあきり

たま〜二つ三つ居るあきの蠅

花より石み路のき〜なげふ伏を

ははる笛の秘る古は音もちは

翁

蝶夢

闌更

沂風

桃路

恭溪

尾全



栗栖の使者ふりも遠く  
元就の榎乃板戸の屋長も  
年々天より伊かゝるらむ  
満ちりめえ月影移る旅衣  
秋にやつらゝ我らつて  
細摺を唄うる福の宮路に  
家もくらしに雲母の如く  
岩ちあふむの流るる夕暮  
定より入るもんや五百年

執筆

眉山

風山全溪路風更夢

夢まの切の酒を解の花  
るはあのを持よりた  
みさうの酒をのまふ風情  
あふやゝあつて表門よ  
花堂の帯をさへい  
袖先を酒をさへい  
立居てもさへ心折る  
あゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝ

風山全更路夢更溪夢



爐のぬきあをうらかき子禁く  
小蠲ちんね祓儀いさめは破き敵  
多輝まうて穰穰たうく  
檀乃ほくくまうく月明き  
控く扇を又うりて舞ふ  
抱字を白髪くくくほほ  
馬はまつさく鞆をくく  
河の曳乃鶏まきもくく  
離の後宮あの人ねくく

風 溪 更 路 夢 更 全 山 路

色をたる越路のふけをうり  
むうのまきをねきふ言叶

山 全

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



一枝や花屋の店をくわ川一椽

洛陽僧 蝶夢

歌も亦も椽少外世のふせり

丰化坊 關更

鶯や一思もあし一教年貞

恭溪

ふ芥子や名利の傍に郷の衣

瓦全

時もさく想はまうれ常りうも

眉山

釣鐘も椎の砵や一秋の丸

几董

分いもと川上をくふも鳥

重厚

秋も己ふめを水鶴のひ糸か

春坡

鴨鳴や若くおほき水の中

亭也

冬よりうまを鷹もる紫の楯か

玄兔

朝風や去一文字に寂も鴛鴦

紫曉

出よくとる花さつる日和の菊

塘雨

帰らる鷹も水都はあれうこそ

只言

木葉も花白眼つたへり 弘勅筆

巴陵

まじもる花巻の乳も房やまは風

幾風

移まふの途に一葉も舞う那

箋重

月もて能のその空をさえゆし

静々堂

おゆふ海や雨乃梨のよ舞

西湖



梅の花を愛するも何れも不世分  
花の香もや多し細のち此川  
朝来風や蛤のりく走りも  
教陰の宮も丹塗平一赤松  
も。能るのふゆよりを川橋  
急二母志のふんりる中  
散る芥子よつうくも。靴小  
と舞う高後の葉の増る古う  
又付りるもの間より二日月

之号  
芦江  
兔山  
自珍  
買山  
芦月  
旭溪  
南昌  
佳棠

多枝振振ハ花も好  
花月潭を志つるそそそ  
急の目を愛りまひり花山  
汝うふふ酒さそそ。郭  
又く花並る人もあふり山橋  
音もや女をらまのちを  
や。水や木城よかふ風の音  
白梅のいしし。新あ  
戸をたしそ。一。家。淋。一。ほ。の。月

杜道  
呂風  
梨園  
如瑟  
溜川  
其成  
杜栗  
芦渥  
獨歩



梅の月を流しゆく雪の音なる  
磯の音あけゆく水声の音  
片枝やふき春ありむきの世  
名月やありぬ内より澄きる  
月の光あきくは梅の蔭さく  
新風よ教言の音きく  
お月つらき雪ふるる  
ふも移る影影坊の光さく  
何果然ぬ入ふ道ぬ終月

明舉  
挑睡  
白朗  
李音  
定雅  
東塘  
紫蘭  
可丈

下五

雙窓版もよれぬ  
秋の雨あきくは  
夕白の影ふ影さく  
ゆ人もあきくは  
名月やあきくは  
梅の音あきくは  
夕白の影ふ影さく  
鏡古矢の射えんを  
あきくは

嘯山  
鷹峯  
戲蝶  
富旭  
千里  
桐里  
浅子  
势能  
魯哉  
恭夫

巖峨  
寺田



白蓮や五人延まゝるゝのの上  
 雲裡  
 豊後千人過りきりむの中  
 良水  
 十九夜の月蛤よ似るゝの申  
 南岳  
 ふる啼一萩や橋あのかり舟  
 梅夾  
 鶴吹やまゝゝ佛小たまふ  
 太祇  
 たり川一や萩の橋の鳥よあゝ  
 遊女  
 花紫  
 田原  
 毛條  
 伏見  
 梅山  
 夕魚や流るゝ妹う垣根うり  
 樂賀

大和

下六

春風や鼻あちりり次馬の上  
 郡山  
 故角  
 白葉あけし指まゝり競へ葉  
 古月  
 身まゝりふかゝる葉や鶴飼舟  
 生樹  
 あゝるゝゝゝ味縁たゞく目まゝか  
 不朽  
 入おやまの葉吹くまゝの風  
 長池  
 舍樹  
 急も角もちりりまゝのまゝの毒  
 白魚  
 宇陀  
 古仙  
 山里や梅をちりり小滴賣  
 古柄



菴室や机の上へ一ふる梅 奈良 如舟

河内

風清し春を春のちうく仲 神田 芦管

むふ合やる春うく仲 壺井 不白

梅もふ春うく仲 秋 路行

庭さや春うく仲 墨井 墨井

和泉

白も梅も春うく仲 堺 吳逸

白も梅も春うく仲 半桂 半桂

下七

花も梅も春うく仲 可翠 可翠

三尺の花も春うく仲 三樂 三樂

酔も梅も春うく仲 芦雪 芦雪

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



攝津

歌仙

翁

松風如櫛を吹く川て秋香也  
 手やふれたまふ壺の乾  
 鶉啼沙碛の郊裾らら  
 ろくく偃を草平清をた  
 六月の雲あもてる子ろ香平  
 飯を入とくくやるく操あは  
 けく不病正尼をまふやうり  
 凡十 桃路 何笠 朔蘭 若翁 不二

下八

峯山あふくく鳴の娘えよけり  
 夏の世始あふくく文よ夏あふり  
 蟻の這出る櫛を消さるや  
 漢うけの琴をくく朝める  
 総角二人あよあ春あふ  
 舟お撲乃抜ああやう羽あは  
 漁村めあふく油たうあ  
 草ああ志けり里あふくあ  
 うらうもあふくああ  
 二父十路笠蘭若二父







松風をきくもふたふたの友  
ふふふふふふふふふふふ

二筆

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

林岫や湯葉まきの舟も笛の孔

不二庵

二拵

若くは身をまよふも鳴也こぞ雀うめ

長月庵

若翁

管の灯ふらと秋葦のうまうま

九十

蛙の尻かきとふき人の息

朔蘭

燈の光るももろくも幸の月

山父

まふ布子の乳うらりのまの風

旧國

おつとくそな履賣はくり折の梅

遅月

鏡鑿る雀戸に棲の雀むし

逸人

銀獅



戸をぬく神のつらり燕つ那  
 大和のや草花中の馬の轟  
 叙する酒狂人ありりあは月  
 秋のや鳥の浮葉のまを舟  
 流しきうふ名を消すの絳月  
 梅浜の巻や一浪波乃空り船  
 り船の河のまはれや飛ぶの鳥  
 不様もあはちん風情くれ  
 世久我の嬉しきうれあはり分

交風  
 一透  
 賀道  
 鳳竹  
 竹阿  
 浪定  
 鳳羽  
 江涯  
 夢友  
 まる女  
 尺艾  
 其庵  
 尼崎  
 西宮  
 池田  
 伊丹  
 東瓦

傘も出さるる雨のさうこう車  
 春風のさうらをら老れほらきと  
 着たあらし毛虫の下る木陰は  
 今朝まらま榎うけける笑う如  
 夢は空をんを秘笑の葉一何  
 誰か一麻の骨や一蜂の足  
 陽炎や千花焦りしる榎うま  
 花咲やさそ東大寺

伊賀



春風やあき風の風車 上野 槐主

笛もや止むくまかかんこる 吳川

よくえんねを虫ふあはれうの花 菊乙

名月や人まらまりそ 彦乃音 一青

たうくお梅かくれりり 初梅 雖夢

やう雀高て聖中お杉のまさうか 五有

月を照らすきく輝くおの舟 五明

門先やれ者まらよる 梅のど 柘植 杜音

下十二

伊勢

歌仙

涉子三子乃一ととゆう妻の也 公翁

妻のまき踏む炊屋お道 弘臣

上の橋とせ橋よりお開りて 幾望

魚豆何の臭さ小蠅のあきまふ家 桃路

おまけしあきの輝まる夏の月 秋水

小窓よりよりしり視彫る音 蘭秀

独ある妹ふ人をあらしらりせ 望



負本も嫁入る世を古風なり  
百姓のみをも信をも神あり  
一寐を〜鴨のつら〜もの  
帰る波配るの秋ふ海にあく  
芳の暮〜〜に浪は海よ  
風ふた〜夕アお月の入さ〜  
〜〜ぬ秋の海をさ〜  
京をた石賣よ知る女子とも  
うい〜細目やお 露  
路 水 望 秀 臣 水

下十三

浪のやうふねふむらんの浪幕  
〜〜日きける 幸は 於 澄  
外 澄り〜網をのぬるまの風  
〜〜二まゝの巢〜の 葉  
江〜 役をさ〜いなきお快待て  
己の目をもみ〜お 暮の 暮  
〜〜名紙鳴き〜居ふ 妻  
〜〜あ〜〜 神のあ〜 帯  
笠 突のそ〜あ〜〜あ〜  
秀 望 臣 水 望 路 秀 臣 望







夕暮の西ふかくやく屋上うら

神風館

弘臣

山吹や散るもたふまきの風

幾望

朝霞をよそよそと梅枝さうり

秋水

鶯の鳴き声も小かき。引音のち

蘭秀

風もあつちやうも起はぬらじ

萬春

空晴も古井よ福のや雀うら

由古

鶉をやまの松子はく福さそき

李東

中庭の鶯も望まや梅の影

淇水

啼はらぬ世の人よしきかんこ

孤月

下十五

梅らり別まぬ旅旅の音をよせ

二曲

鶉犬も聲しきぬ月影半くれ

斗時

鞆つちやうよあつて雉子の影

自然

毒殺るや孤ふあみはむ殺の陰

貫魚

梅咲やこもまゝ雨も成

希声

雨。表や禁火のさゆる梅の影

快口

あつ梅の枝もよまやあつち

三省

菴の葉世向乃すみて雪りうれ

之徳

土々菊や海苔ふえぬおと何れ

蘿父



花紅 必のあもきあも入る料程もあ  
 宗居 道さきく人さくし山さくさ  
 坡反 ア、とささひる二ふ成もり  
 青白 推木つむ山里さくしむあめ花  
 三又 梅さき小眉よりゆるむ解さく  
 巴玉 梅子の中よりさくしあか  
 魯然 又もさきもさくさくさくさく  
 奇峯 咲初さきさく梅のさくさく  
 颯居 影ほさくさく梅は白さくさ

下十六

春水 梅さき小花さくさく運のさつさ  
 周員 あり梅や妻さくさくさくさく  
 丘高 風のさきさくさく中のさくさ  
 逸漁 さくさくさくさくさくさくさ  
 春湖 結繩の間もさくさくさくさ  
 芋月 赤さくさく梅さくさくさくさ  
 龍石 さくさくさくさくさくさく  
 五蓬 山さくさくさくさくさくさく  
 冬羽 神梅の梅や梅さくさくさく

河崎  
 楠部  
 櫛田川  
 松坂



風やおりのつらき 鶴の程 滄波  
 梅の香ふくやこ 新後の便のふ 斗墨  
 雪の如きもよ 汝の 神々の那 吳扇  
 汝河の波きき ありや 梅白ふ 竹父  
 人をふくくらや せらん 春のゆ 筈厄  
 家もあはむあふ 田作り 膝の如 翠溪  
 大入道のふくき せりし 鶴の目 槿馬  
 山系花や 辰のうら ともた みのり 羅道  
 しくし 春の二の ねまて 一ね 柳の分 起友

下十七

毒のやちのよき 夢干 大根 嵐松  
 実の生つこやふ 枝の 春の那 浮養  
 朝はれ 月見 海の 中を 雀のふ 馬雪  
 風流のふ 雲よ 雛の せんの ち 上野 何鳥  
 いそたよふ 老の ぬや 梅のふ 雲子  
 月をぬく 雲の 傳の 鶴の 舟の 夢梅  
 雪のふくは 起ま しの 以 部 里境  
 初雪や ころ 大 眠の 梅と 桐花

志摩



大さるる樹々の志まきりやみよの月  
以莊  
風のせむきやうたりらりら  
蘭溪  
浦定よ街のつらぬの粒塵のれ  
有渚  
名月やふあまうらむ心楽しむ

尾張

二湖三湖心まらし〜啼〜  
暁臺  
葉のまきやまを〜ふれ〜  
万岱  
又所〜り備の管もれ年〜の梅  
沙莫  
秋のワ〜れ石も〜な〜て女島花  
芝園

名古屋

下十八

松風の吹くふ原のまき柳〜  
蓮阿  
ま〜も〜ふね〜ぬ〜や〜  
かの  
船乃火のあ〜〜  
孟祇  
曲多や〜  
松羽  
ま〜れ〜  
羅城  
振〜向〜  
字等  
梅ら〜  
五律  
梅咲や〜  
昨來  
岡〜  
みら女







五月の月と並ぶくはの厚化粧  
まき風やぬ田のぬむむさくら浪  
さきの布を聞たりきり殿久保  
やふらふらも春をさけり郭へ  
得々

遠江

志つらさやぬ梅をたふ村はくん濱松  
まき里や月の結よ小おきぬ  
あつらあひの信よあまのりさの山  
下臥や梅の中一のまのま  
約我

下二十

谷さきまのりさの梅  
うらぬあまの余はくおおや家楼  
さき白やまの梅のうの初  
あまの影のふよおのりつね  
あつらあひの月小酒砂む梅色  
あま梅をまふ去こふ日あつた  
昼う月や遠らうごう一太井川  
月と日ふるさぬ油やゆき梅掛川  
名月の命うらうらぬ魚  
魯雀  
作良  
归来  
其桂  
方壺  
是月  
竹裏  
四明  
阿郎



摘よちり梅紅あけりあ茶梅

未到

駿河

お白澤や柳よ向ふ尾を馬

藤枝

雪みち

五奇も梅十歩よあやまのり

來而

あ月の淋しきまを歌

雪衣

そこのおをを御しきまのり

義好

あけの歌や海へ晴しき雷の音

抽水

登り月や夏の間を水の音

真田

沾吏

そこのおをを御しきまのり

玉璣

下九一

そこのおをを御しきまのり

物我

名月や孤崎ふあまの歌

久能

雁赤

岸よ水吉うら海をききり

峨月

海妻の岸よりあまのり

赤童

白梅お花をあまのり

府中

技老

梅押初る月をあまのり

女

花鏡

名月や夢つらこの花川戸

梧泉

あまのりの歌をあまのり

文母

秋風や鐘をあまのり

江尻

聴波



豆白の暇くんとて

鳥孝

春を歌は遠きうら

湖月

人問のあはまき

官嵐

甲斐

時をふよと無言は

葛裡

名月や光りささ

漢甫

朧月火燈き人乃

黒澤

松の青き月

あつ女

菊のうらひを

菊路

時をありふよと

栢舟

白梅の白ひ

樗冠

香ふふと

得魚

月をきく

間如

郭公き

清高

梅のや

芦角

名月や

鈴車

名月

素光

下九二

西南湖

東南湖

廓田

市川

府中



十之八只志ん〜〜必定〜 斗久

月を吹風あり〜〜 寝 臺臺ヶ原眠

梅〜〜やけ〜〜庵の〜〜 小原 石牙

伊豆 三嶋 仙阜

嘗た又〜〜 日 手石 可香

梅〜〜や〜〜 摺〜〜 己白

片の袖の振〜〜 熱海 吞吐

物も形もか〜〜 九湖

尾もふ世の〜〜 風條

蒲のやも入も〜〜 芦雪

梅の〜〜 小田原 眠石

尾もふ世の〜〜 蜀花

光そよ 螺 廻の 蜀花

暮りや〜〜 蜀花

〜〜 蜀花

夕々山や 蜀花

〜〜 蜀花

〜〜 蜀花



雨のやぶらぐりよのちりよ

東李

名月也小泉如牛ふは秋す

泥山

芳色移り花のやふの行り

徐来

峰ふは梅のー定まする春の風

丈水

鶯やー出ぬ吉もきのよも

乙奴

あゝいん次啼きこたふこぢうハあ

仙鳥

若牛やーこもる佳ととあ

米舍

名月や露もとんるる水の石

百遊

月く宵放しありのるあ

布谷

下七四

まらりー山るあゝ梅の教

志

大いん歩ゆとるあふ

春鴻

丹波

まらりー花もりあふる

井車

夕の月や吹え路もとるの月

其葉

売物ーあゝき峯や梅狩

文虎

名々や燈遠り川の面

貞之

くらりかゆよかゆ大の橋のれ

文樵

くまの路や老ととの初さ

乙路

笹山

味間

田貫

鎌倉女

猿ヶ嶋

下飯田



花吹雪の人の寝るぬ里をたづ

梶原

思月

卯のふお名もなまのふり

梶原

洞々

山風ふ吹ちるさしきり

秀峰

丹後

さつくとゆきつらき

宮津

馬吹

ま風やはたきりの夜り

百尾

舞ひて大莖のよき

跨山

舟たぐる火の影よ

寒口

出代りのまじり

一聲

下九五

流るる鴨のうら

田邊

蘿牛

野のまはるおも

木越

あまの岩根ふ

峯山

社牛

あつし一掃り

其白

あつ細や

きこ女

但馬

初鴨のりり

豊岡

南花

あつの上

東走

ふきふき

出石

佛白



山々もや霧の吹流るる白魚

梅の香も風におこまうと春の月夜 和山 元仙

雪やうらげの竹の都ふ音 竹田 和石

山細や道を懐くさる雉子の如く 矢名瀬 西屋

教路の鼻サうむまやむらさねむ 矢名瀬 壽硯

まごの志さうとさうと梅の下 春江

白くくもさうとやさんさ敷乃毒 諸香

まごの躑躅をさむの眼鏡さ 至峰

まごの志さうとさうと梅の下 尚古

涙のうらげの身をさ脊の肩の川 朝暉

まごの志さうとさうと梅の下 禾年

風もさうと水鏡のまごの如く 僊只

まごの志さうとさうと梅の下 如流

梅の香も風におこまうと春の月夜 養父 如竹

一輪の舞もかうと胡蝶の如く ちよ女

出船やれのおたうとぬまの風 くら女

水仙の幾度とさうと春の月夜 守中

因幡



お二まの仕えおろしやまの風  
片破まこゝ蟻の生るゝ牡丹こゝ子  
多おまこゝ山ぬえまの終は  
若櫻  
志切  
山旭  
笑花

伯耆

懸りちりゝ町やうの影のむらさ  
鴨をこや糸結良のうらりよるま  
都りかゝまこゝまこゝむさめ下  
甲とこゝまお中るゝのむ  
米子  
亀汀  
祇川  
桃岐  
木屑

出雲

下九七

卯のむやおろしは垣もおろし  
妻やゝゝの流し舟の牛こゝる  
あゝの月こゝゝやゝゝのむ  
里をこゝりゝあゝのむ  
松江  
竹裡  
龍尾  
里夕  
此橋

石見

名月や流し根の帆の影こゝる  
流しをこゝりて月おのゝま  
ゝゝ在るゝゝまを海せりゝゝ満  
まゝおむやまゝあゝりあゝ  
素流  
如恒  
之水  
満枝女



言はれ柳志のめし 帰一りきりま 犬巴

野を 日原 萬鼓

と 柳志 柳を 馬や 即日 露 蝶夫

ある 中 ふる ぬ ぬ 人の ちりり 巾 席山

枯 ぬ ぬ ぬ 友 ぬ ぬ ぬ ぬ 露竹

けり けり や ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ 河元 鳳沖

ぬ ぬ や 橋 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ 鹿鳴

菴 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ 如珪

花 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ 築瀬 嵐峯

ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ 見漁

造り ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ 里暁

此 日 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ 藤紫

ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ 如蕙

隱岐

林 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ 艸徑

瘦 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ 雀衣

播磨

葉 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ 鹿子川 青蘿

葉 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ 鹿子川 青蘿



馬士の廓しつとくくつ夢梅哉

林田

雨人

嘗しつ持持しつやんまきの雪

姫路

暮蛤

露をめておふしつとくくつまきの雪

寒彰

何の未ふ別しつとくくつまきの雪

梨青

手物とぬ目を初鷹の眼う那

室

何佛

折れしつ枯枝やしつとくくつ

明石

立季

やう梅乃答射とんらはしつ

季雨

立枝とつ初とつ水とつとつ梅柳

北花

梅とつとつとつとつとつとつ古鳥

石羅坊

下九九

海士とつとつとつ旅傳とつとつ

可雄

名月やおしとつとつとつ海のと

耳毛

風の早もつとつとつとつとつ

脱負

とつとつとつとつとつとつとつ

季冠

けしの懐とつとつとつとつとつ

淇筍

はつとつとつとつとつとつとつ

五川

腔おやおとつとつとつとつとつ

呼鷄

とつとつとつとつとつとつとつ

一馬

花とつとつとつとつとつとつとつ

楫流















ちよの作の皮のやみ〜まの月  
 何笠  
 人泣く芽端小啼や夕鳥  
 土芝  
 ぬるもふ〜して紙燭消よ〜里  
 梨陰  
 薄〜美人の楳一のやう〜那  
 尾道  
 雨後の月よ〜や〜初さ〜  
 女  
 風絮  
 和〜あ〜あ〜い〜も〜も  
 少年  
 艸雨  
 空月や〜探子の聲よ松乃風  
 稻井  
 白蓮〜〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
 馬時雨  
 五峯

下三十三

安藝

雪の君とや〜い〜ん〜二日月  
 喜一  
 扇梅や水〜〜あ〜あ〜あ〜あ  
 扇路  
 月を〜〜あ〜あ〜あ〜あ  
 辰風  
 葉の〜〜あ〜あ〜あ〜あ  
 桐生  
 空〜〜あ〜あ〜あ〜あ  
 文五  
 何の〜〜あ〜あ〜あ〜あ  
 尺  
 之園  
 新〜〜あ〜あ〜あ〜あ  
 楚流  
 く〜〜あ〜あ〜あ〜あ  
 五鹿

廣嶋



雪の霞中より鶴の舞う那  
うららかなやうなまがさして晴風情  
月代や氷より水より清く流る舟  
山々々々々々々々々々々々々々々々  
石昌浦のありてけの白ひか  
さうさうさうさうさうさうさう  
磯の義の東に暮れつゝ合ぬり  
あまのまは川に流るるてまの枝  
あまのまは川に流るるてまの枝

六合

雨齋

素流

東吹

蘭洲

丁々

青賀

柁中

翠衣

周防

下三十四

あまのまは川に流るるてまの枝  
山々のまは川に流るるてまの枝  
舟のまは川に流るるてまの枝  
川を流るるてまの枝  
紫陽花のまは川に流るるてまの枝  
あまのまは川に流るるてまの枝  
男のまは川に流るるてまの枝  
我らまのまは川に流るるてまの枝

岩国

芙蓉坊

紫葉

和杏

南兆

荷涼

壺外

百樹

朝鴉



掃除しき 藪野えんりかしくし

為霜

長門

余の花よ 落くんせしる 情うれ

萩

梧来

初橋 女の 連くも なるふ ありし

雨林

ふちの 山や 天上人の ちよ 別世し

楚柳

あまの 花よ 灯台きこ とも ぬめ ぬ

里方

字人も 思も 名ある ちよ け

まの女

んや よや おも ちよ 解ても の ぬ

花密

ちよ 清くも ちよ 歌う ぬりし ぬ ぬ

芦秋

下三十五

大根の ぬけ ぬり ぬや の ぬぬ

世謝

う ぬぬ ぬぬ ぬぬ ぬぬ ぬぬ

帰田

柿の ぬや 紙漉 ぬぬ の け ぬぬ

雨西

ぬぬ ぬぬ ぬぬ の け ぬぬ 標

赤間関

薰里

ぬぬ の ぬぬ や ぬぬ ぬぬ ぬぬ

羅風

世を ぬぬ ぬぬ の け ぬぬ の ぬぬ

呉溪

ぬぬ ぬぬ ぬぬ の ぬぬ ぬぬ ぬぬ

里梅

ぬぬ ぬぬ ぬぬ の ぬぬ ぬぬ ぬぬ

みゆ女

紀伊



八尋子笑程居もなめく山樓 和歌山 秋 雲止

毛體子様もいぢいむえうめ 風後

おのめいしうめいぬおとさく 眠考

おとさくの外もや様 文卿

髪結の清もいふ乃言蒲子 呂周

卯のふの笑もいふ乃言蒲子 李仙

さき月やおの清もいふ乃言蒲子 路長

よれほいお清もいふ乃言蒲子 斗牧

枯川よ空もいふ乃言蒲子 其雲

下三十六

かしまういぢいむえうめ 高野 措筵

さき月やおの清もいふ乃言蒲子 曾涼

おのめいしうめいぬおとさく 白翠

おとさくの外もや様 楚木

髪結の清もいふ乃言蒲子 知足

さき月やおの清もいふ乃言蒲子 高野 端雪

おのめいしうめいぬおとさく 眠蛙

おとさくの外もや様 海牛

おのめいしうめいぬおとさく 魯水



淡路

梅雪や冬をけし雪車ハ極の下

狄毛

燈火の影に渡りて啼く鳥

此道

庭のこのふもを春と初めたり

江山

はくらく馬もかきも返帳の月

木涼

お月よ四時満ちて世を染る家

廣田

尺五

と歌も又雪啼ぬしらるる

淇竹

風のふき吹あつた雲を金うね

尾合

風よふく大根そたのりき

雨竹

下三十七

孟春一きしむむもか月見のあ

松帆浦

馬演

春の秋あやゆも酒を酌らるる

玉屑

花を思ふあつたるも花の影

檜原

伯民

新秋を皆月のてる門田うね

榎並

馬雪

舟連ハ橋ふりて本とるる

杜橋

三日月やあつた細の目を渡る

楚山

月涼一はくふも春の影

琴塵

阿波

梅の香やあつた風もあつたり

徳嶋

青橋



鶯乃まゝさうりきやー 魚梅

夕の月やふきい後よあゆりり 東阜

あま電や何いちのこも梅も若 潮鼠

繼志庵の目とやふふやまのむ 夕舎

寺のくやと目ー村名や檀特舞 聞和

風やー神ふかーくー小桃切 機因

よふ夏のまゝこかりりうほくおん 芦中

市中や子供く山まゝもの枝 蓼花

松乃乃まゝまののまはる浦の枝 馬來

讃岐

あもまの痛もまのふまのー月 大見原 羅浮

登白や纒解まのまのーはま 丸亀 白化坊

かまーくやまのまのーた風の音 宗己

あは乃あまーまのまのーま 和翠

花のまのまのやまのまのー 東阿

小車やーまのまのーまのー 竹路

花のまのまのまのーまのー 笠井 芝峯

おはまのまのまのまのーまのー 子魯



月原のこぼれはさしむる津崎

頼石

葉のよき庭のまへに初月夜

桐谷

朝鳥やの代経の竹を力炒

高松吐鳥

山吹やあらうの春ははりの水

女歌童

伊豫

さうさるの女よさるれはあめり

中山虫二

後の月輪よと川や池の水調り

斜笠

さるるを糸の路へ結ぶるる

宇和嶋素瀬

風や山名の角くさるる

民翠

下三十九

見たりとて休む目ももむむが

志隆

都出の雛子さるる

山二

梅はまのさるる小原よ借ひり

蘭角

松栢もさるるのあり

琴秋

山の井よ月さるるの夕ぐれ

静波

かんのさるる鳴やさるるの加茂地

風酪

女房に酒とさるる時鳥

素明

涼風よさるるさるる女さるる

巴龍

籠書や机の隅にさるる月

儿風



移もくもや鳥の瘦くも 船乃月 一貫

風や山く追ひてむ 鐘の音 萬輔

空しくや 洲の 藍の光 丈水

空しく 日暮 松山 蘭芝

たしく 月を 照らす 蘭臺

舞乃 虫さう 三津 方十

土佐

くさき 葉の 只一 高知 挑陽

さく葉や 日別を 老の 裏ま 笑山

下四十

あまのけく 夕影の 宿かき 路由

梨の 花 遊は 中村 茶夕

星合や 作向の 度雄

垣の 小 結の 李若

筑前

きんけ 花の 福岡 花朗女

波の 鳴 波鳴

嚏 朝 白ゆ 梅珠

花の 蝶 醉



春風や拾ふ〜平仙貝  
 月の〜日におぼろ〜あつめ  
 筆の〜やの流きやむかしのど  
 船の〜をえ〜船色の秋子外  
 何〜う松皮の秋溜梅もる  
 教ら〜やる歌ふ中をほ〜き  
 唐門よ牛の勢ありふ〜り  
 あ〜のら〜いや〜か〜く〜梅の志  
 枯〜の眼もか〜り〜る〜むめれも

春江  
 梅巴  
 既醉  
 沙湖  
 笋里  
 君花  
 立止  
 加涼  
 蝶之

下四十一

ち〜話〜〜い〜人〜よ〜〜何〜れ〜梅の志  
 糸綱のほめ〜なり〜き〜梅乃也  
 梅〜き〜れ〜能〜を〜ぬ〜け〜〜ある〜あ〜子  
 傍〜ふ〜の〜水〜音〜言〜〜〜月  
 空〜月〜や〜關〜如〜海〜玉〜槓の〜け〜月〜し  
 ふ〜り〜き〜〜〜言〜ふ〜ま〜け〜入〜る〜梅の〜火〜か  
 こ〜の〜ふ〜り〜月〜ふ〜肥〜る〜素山〜よ〜か  
 夜〜も〜あ〜〜〜音〜〜り〜留〜〜〜世〜分〜か  
 山〜海〜を〜〜〜月〜も〜ま〜〜〜梅〜う〜那

如水  
 聞夕  
 佳十  
 素鈞  
 素栞  
 梨花  
 俚雪  
 鼠紅  
 芟山



春の鶯はさびしき啼し清濁のうね 飯塚 依兮

梅の香や遠くさるる笛乃の音 文丈

瘦骨よかゝる病もや郭の公 竹雨

昼鳥や舌含たまき一子と天 文里

乞食乃少翁くさるる鳥の月 舍丁

推櫂も花のさるる風つね 莞尔

筑後

鶯のうと袖を拂ふや結し月 文留米 草薙

おとばはとさるるものよ梅のさ 下四十二 若邑

春の鶯とかい梅りし月おと 吉井 紫羅

春の吹とさるる教る岨の梅り 吉井 泥牛

鶯の遠くさるる花の老るける 塙山

さるる梅の味や鄙るる 善道寺 藍江

涼くさるるやありさるる月 善道寺 可美

豊前

鶯の遠くさるる梅りし月 小倉 紫流

春の吹とさるる梅りし海の上 文守

白梅の遠くさるる梅りし月 楚白 楚白



我山の志や一土所と由る由縁賞  
 推吹おるはらゝる下届した  
 あるよりも淋しき合歌の夕うを  
 ちりもけき流るるさ月のほし  
 多仙や鶯のさうらふ節あしを  
 一土所の又うらうらるる名女可も  
 月とそ月そ女もむとあしはらるる  
 定月よ夜をえきつらん鶯のさう  
 多うりし一土所らん鶯のさう

下四十三

山の辺や公泥澤一土所無の雲  
 暖の日け口あけやむらんちむ  
 中津 長山

豊後

朝の海や花れまの垣のおまき  
 片をハさうらうるえ悟り揚を在  
 多うらぬ舟信らぬ橋やかまはら  
 力なく一室へありひり居了ぬ  
 漏桶ふ枝の上へいやまの何免  
 月の由らうらうらうらうらうら

日田 燵士  
 瓢坊  
 文靜  
 杵築 青容  
 杜由  
 菊男







石斧  
 左琴  
 利水  
 禹桺  
 玉淵  
 玄々  
 花々仙  
 斜月  
 定雅

下四十五

車文  
 文塘  
 春喬  
 肥後  
 靈沼  
 箕溪  
 蔦路  
 一江  
 鴨足



中津のふらふらとさくらさくらの手揃うか  
 八代 柿青  
 みくろくし何とあはれんまを月  
 文暁  
 何れやも梅のさや一奥より  
 清壺  
 世の枝のさくさくは鳥帽をか  
 化仙  
 折のあやめかきよけし白ひかり  
 浦蝶  
 草のさくさくは海をよみよみ小鴨うを  
 尺屈  
 程さくさくはさくさくを芥子むを  
 鼠関

大隅

細代あやめもさくらさくらの手揃うか  
 下四十六 潦月

月代やさくさくはさくさく一電  
 蓋技  
 春のや 縁たけかきさくさく  
 弁門  
 たくさくさくさくさく芥子のむ  
 雅松  
 交りさくさくさくさくさくさく  
 吟松  
 る清や 芥子のむさくさく  
 横車  
 さくさくさくさくさくさくさく  
 蘭玉  
 蘭秀  
 川水はさくさくさくさくさく  
 風曲  
 牡丹さくさくさくさくさくさく  
 月渚



薩摩

梅のよやゆらぎをよやうるま

完介

し鳥や柳のねむるをよひ

鹿兒嶋 廊龍

東の藤所をよひ

龜毛

よのよのよのよのよのよのよ

梅利

梅のよのよのよのよのよ

菊貳

梅のよのよのよのよのよ

芦醉

梅のよのよのよのよのよ

松眉

梅のよのよのよのよのよ

春苑

下四十七

啼鶴の尾をうらうらうらうら

翁州

日向

梅も今年をうらうらうらうら

中村 無赫

梅のよのよのよのよのよ

我樂

二之編花も散り

延岡 兔谷

梅のよのよのよのよのよ

祇川

梅のよのよのよのよのよ

宮崎 廬山

梅のよのよのよのよのよ

可笛

梅のよのよのよのよのよ

梅雨















於其流者何異於詩歌乎且  
其章句簡而雅也最為通里  
身宜哉俳道日盛而貴賤混  
同以趨乎道百歲之後而蕉  
翁之名益顯焉豈不愉快  
乎翁沒而于今百年矣北  
越稱桃路為報師恩封土建  
碑且述俳諧一部以乞序予

山川遙隔勞驛使奚辭乎因  
以應其需爾

寬政二年歲次庚戌春

旭山 赤松長卿識





蕉門書林

京都

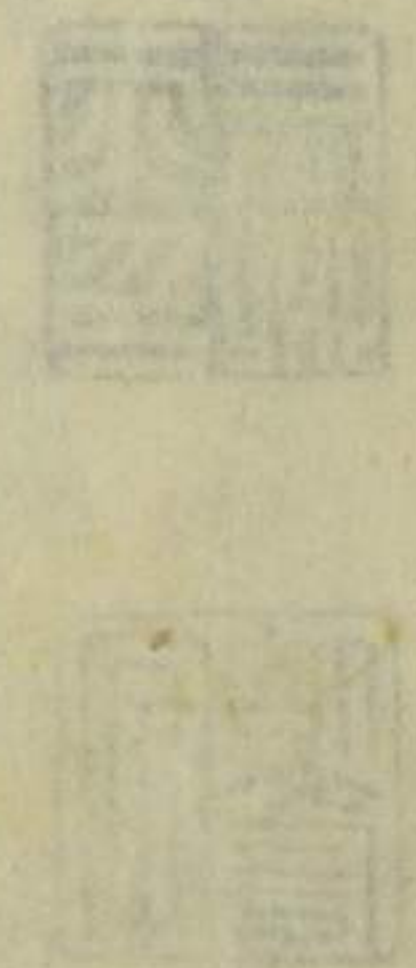
橘屋治兵衛

江戸

西村源六

跋四

蕉門書林  
西村源六  
橘屋治兵衛  
跋四



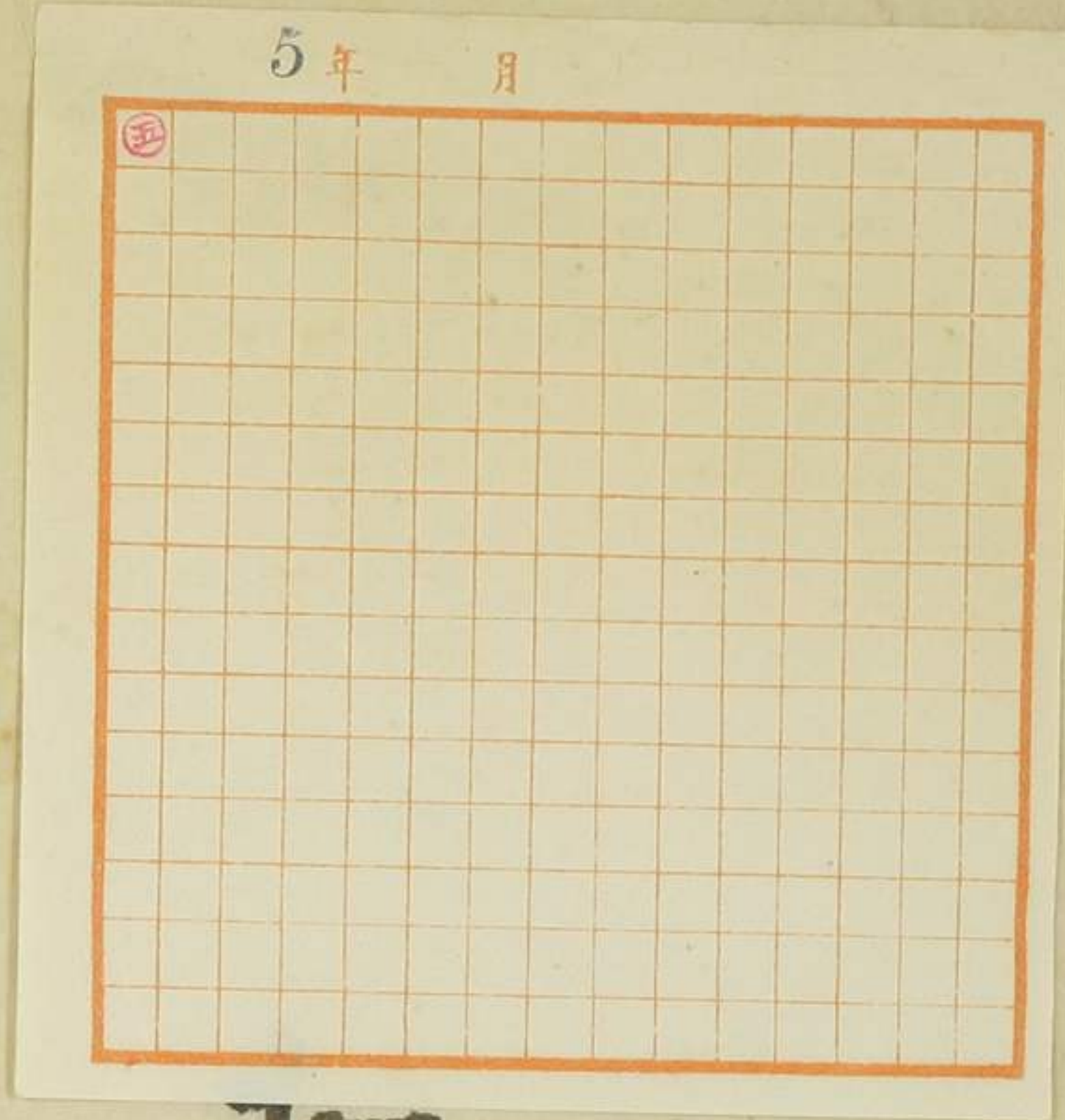


~~Vertical scribble~~

Vertical scribble

20

5年 月



五明  
松葉尾



Handwritten notes at the bottom right of the page.





京都書林

松葉庵

玉明



Handwritten notes in cursive script at the bottom right of the page, including the date '明治二十九年' (Meiji 29, 1896).

Handwritten characters, possibly '玉明', located in the center of the left page.



Handwritten characters '玉明' at the bottom left of the left page.



